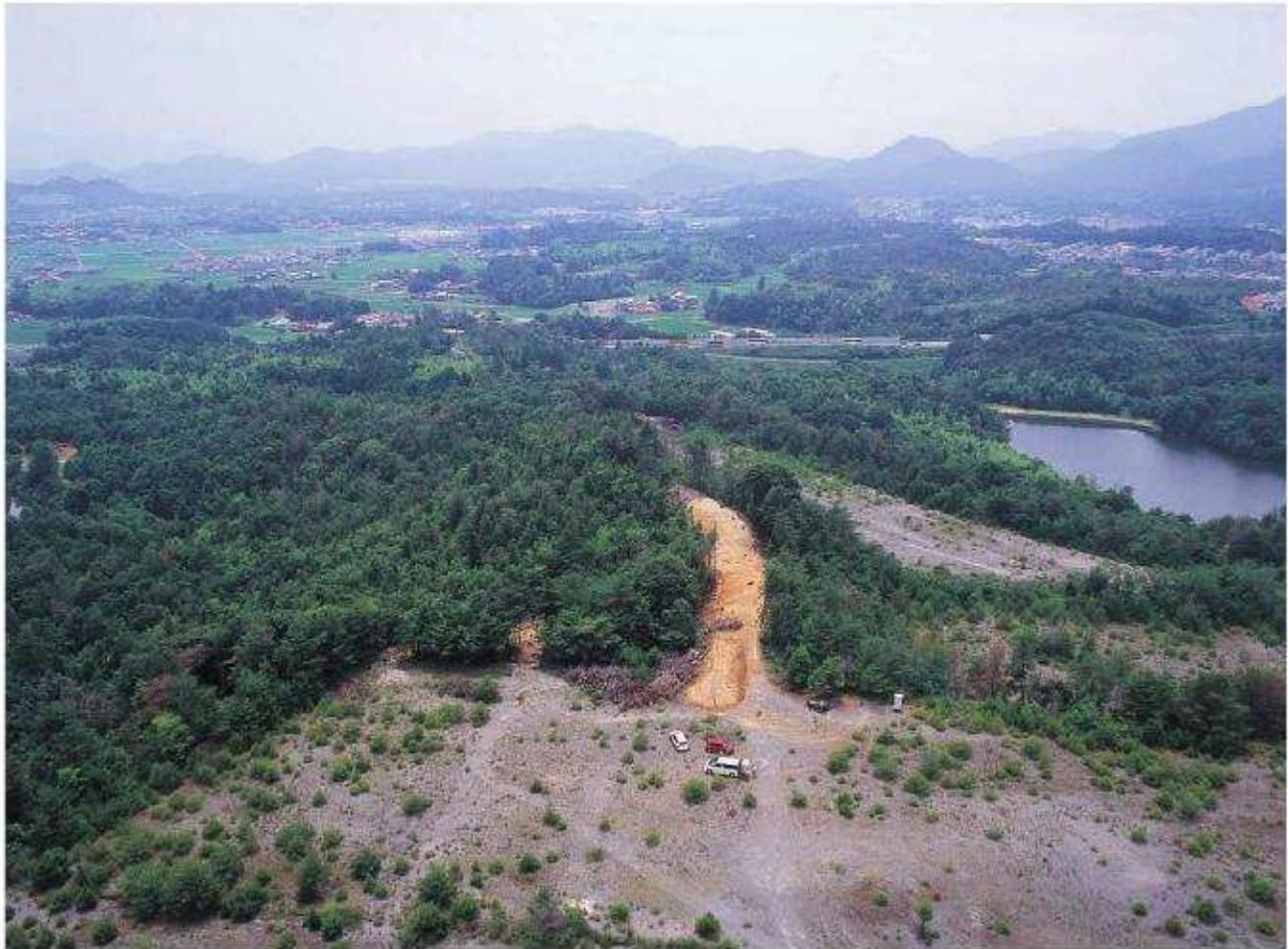


団子山5号遺跡発掘調査報告書

—寺家地区産業団地造成事業—

2015

東広島市教育委員会



a. 団子山5号遺跡完掘写真（北から）



b. SK1遺物出土状況

はしがき

東広島市は、長い歴史と伝統、恵まれた自然環境を背景にしながら、計画的なまちづくりを進めてきました。既存産業の活性化はもとより、幅広い分野の産業が集積した結果、人口の増加をはじめとして製造品出荷額や小売販売額なども増大し、全国的にも注目される成長都市となっています。

そして今、社会経済情勢が大きく変化する新しい時代において、「未来にはばたく国際学術研究都市」を将来の都市像に据えて、県央の拠点都市を目指しています。

今回発掘調査が実施された寺家地区は、西条盆地の北部に位置し、穀倉地帯として田園が広がっていますが、JR山陽本線に「寺家」新駅が開業することが決まり、東広島市の中でも発展目覚ましい地区でもあります。こうした中、この穀倉地帯から得られる豊かな農産物などが基盤となり、人々の生活が営まれた様子が、数多くの遺跡として残されています。

本報告書は、産業団地造成に伴って実施した発掘調査の成果を記録したものです。地域の歴史を解明する一助となり、埋蔵文化財の保護に対する理解を深めていただくための資料として広く活用されることを願っております。

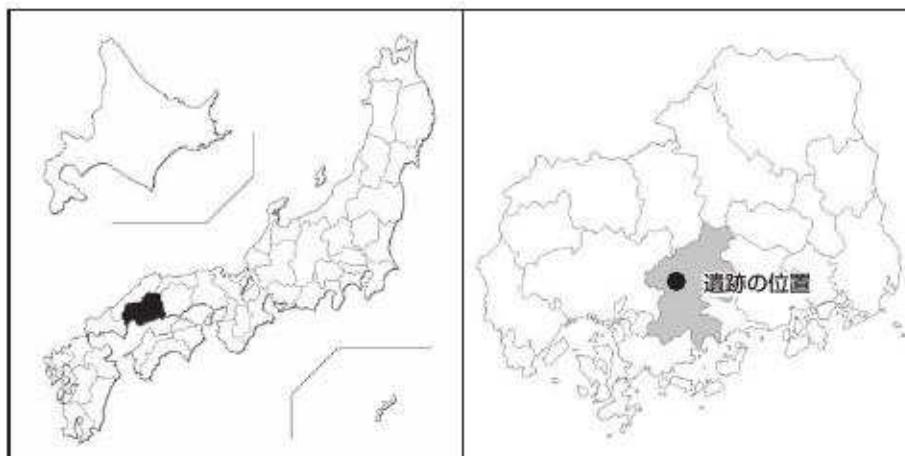
なお、発掘調査及び報告書作成にあたり、ご指導、ご協力をいただきました関係各機関、研究者の皆様及び地元の方々に対し、深く感謝いたします。

平成27年3月

東広島市教育委員会
教育長 下川聖二

例　　言

- 1 本書は、東広島市教育委員会（以下「市教委」という。）が発掘調査を実施した、寺家地区産業団地造成事業に係る团子山（だんごやま）5号遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査並びに整理・報告書作成作業は、東広島市から委託を受けて、平成26（2014）年度に市教委が実施した。
- 3 発掘調査は、市教委の主査石垣敏之、埋蔵文化財調査員吉田由弥・杉原弥生が担当し、市教委職員が協力した。
- 4 整理・報告書作成作業は石垣と吉田が担当し、市教委職員が協力した。
- 5 遺構の実測・写真撮影は、石垣・吉田・杉原が行った。
- 6 遺物の実測は吉田が行い、写真撮影は石垣が行った。
- 7 測量用基準杭の打設は、株式会社ランドコンサルタントに委託した。
- 8 空中写真的撮影は、株式会社四航コンサルタントに委託した。
- 9 本書の内容は調査関係者で検討し、Ⅱを吉田が、他を石垣が執筆した。編集は石垣と吉田が行った。
- 10 遺物実測図と写真図版の番号は同一である。
- 11 第1図は国土交通省国土地理院発行の 1:25,000 地形図『安芸西条』を使用した。第2図は東広島市発行の1:2,500 東広島市地形図（0-6・7、P-6・7）を使用した。
- 12 本書で使用した方位は、世界測地系座標北（国土地標第III系）である。
- 13 本書で使用した遺構の表示記号は、次のとおりである。
- 14 SB：住居跡、SD：溝状遺構、SK：土坑、SF：道状遺構、SX：性格不明遺構、P：ピット
- 15 調査で得られた資料については、すべて東広島市教育委員会が保管している。



広島県東広島市及び团子山5号遺跡の位置

団子山5号遺跡発掘調査報告書

目 次

I	はじめに	1
II	遺跡の位置と環境	2
III	調査の概要	5
IV	遺構と遺物	8
V	まとめ	13
抄録・奥付		

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図 (1 : 25,000)	4
第2図 団子山5号遺跡周辺地形図 (1 : 2,500)	6
第3図 団子山5号遺跡遺構配置図 (1 : 300)	7
第4図 SB1・SK1実測図 (1 : 40)	9
第5図 SK2・P1・P2・SX2実測図、調査区東壁土層断面図 (1 : 40)	11
第6図 遺物実測図 (1 : 3)	12

巻頭図版目次

巻頭図版 1 a. 团子山5号遺跡完掘写真（北から） 巷頭図版 1 b. SK1 遺物出土状況

表 目 次

表1 遺物観察表

図版目次

図版 1 a. 空中写真 完掘遠景 (北東から)	図版 5 a. P2 完掘 (北から)
b. 空中写真 完掘遠景 (北西から)	b. SX2 完掘 (北東から)
図版 2 a. 調査区南半完掘近景 (北から)	出土遺物
b. 調査区北半完掘近景 (北から)	
図版 3 a. 調査区東壁土層断面 (西から)	本文中写真 遺跡が削平された様子
b. SF1 完掘 (北東から)	図版扉 調査前近景 (北東から)
c. SB1 完掘 (北東から)	
図版 4 a. SK1 土層断面 (上部、北から)	
b. SK1 土層断面 (北から)	
c. SK1 遺物出土状況 (北から)	
d. SK1 完掘 (北から)	
e. SK2 完掘 (南から)	
f. P1 完掘 (南から)	

I はじめに

团子山5号遺跡は、寺家地区産業団地造成事業に伴って広島県東広島市西条町寺家で発掘調査が実施された。以下、調査に至る経緯を概述する。

平成22年11月4日付けで産業部産業振興課長から生涯学習部文化課長へ未利用県有地活用調査業務について意見照会があった。これを受け、計画地周辺には周知の埋蔵文化財包蔵地が存在することと、それ以外の地区も遺跡の有無及び範囲を確認するための試掘調査が必要な旨を回答した。

平成25年4月4日に東広島市長（産業部産業振興課）から東広島市教育委員会（以下、「市教委」という。）へ文化財等の有無及び取扱いについて協議があり、市教委では現地を分布調査（実地踏査）した。計画地の大部分は、古い開発によって削平されていたが、部分的に丘陵や平坦部が残っていたことや周辺には周知の埋蔵文化財包蔵地の存在が知られることなどから、部分的に試掘調査が必要と判断し、その旨平成25年4月19日付けで回答した。平成25年7月17日付けで東広島市長から試掘調査の依頼があり、市教委が試掘調査を実施した。その結果、土坑を検出し、弥生土器が出土したため、平成25年10月3日付けで团子山5号遺跡を確認したことを回答した。

市教委と東広島市長で協議を重ねた結果、現状保存が困難であると判断され、遺跡の記録保存を図ることとし、発掘調査は、市教委が実施することになった。

東広島市長から平成26年5月7日付けで埋蔵文化財発掘の通知（土木工事の届出）が提出され、市教委は、記録保存のための事前の発掘調査が必要な旨を平成26年5月12日付けで通知した。そして、東広島市長から平成26年5月13日に発掘調査の依頼が提出され、市教委は、平成26年5月15日に承諾する旨回答した。

平成26年5月31日から7月18日まで発掘調査を実施した後、整理作業及び報告書作成作業を行い、合わせて収蔵作業も実施した。

本書は、以上のような経緯を経て実施した発掘調査の成果をまとめたものである。当地の文化財資料として、また文化・歴史探究の一助として広く活用していただければ幸いである。

事業者である東広島市から発掘調査・整理作業・報告書作成作業の便宜を図っていた。また、発掘調査にあたって地域の方々の多大なご協力を得た。末筆ながら記して心から感謝の意を表したい。

調査体制

平成26年度

東広島市教育委員会

教育長：木村清（～平成26年6月30日）、下川聖二（平成26年7月1日～）

生涯学習部長：大河 淳

次長兼文化課長：藤岡孝司

参事兼出土文化財管理センター所長兼調査係長：妹尾周三

調査 調査係主査：石垣敏之、埋蔵文化財調査員：吉田由弥・杉原弥生

事務 主査：萩原真史、事務職員：片山由紀子

II 位置と環境

団子山5号遺跡⁽¹⁾は、東広島市西条町寺家に所在する。東広島市は、広島県南部のほぼ中央に位置する、人口約18万人の都市である。市域の中央には標高200mの西条盆地が広がり、平坦部を黒瀬川が蛇行して南流し、その周囲を標高400～600m級の山々が取り囲んでいる。当遺跡は西条盆地の北西端にあたり、独立丘陵の一角に立地し、以前に開発されたモータープール造成地に隣接している。

市内では、旧石器時代から近世・近代に至るまでの遺跡が数多く確認されている。ここでは、当遺跡周辺の遺跡について概観していく。

旧石器時代の遺跡としては、未調査ではあるが五楽遺跡⁽²⁾が石器の散布地として知られている。また、集落跡としては広島大学構内の西ガガラ遺跡（鏡山）で、後期旧石器に比定される住居跡が検出されている。

縄文時代の遺跡としては、当遺跡のすぐ北西にある刈又池遺跡⁽³⁾で、石器や土器片が採集されている。また、三ッ城第1号古墳⁽⁴⁾の墳丘盛土下層からは縄文晩期の土器と石器が、三ッ城第2号古墳⁽⁵⁾の墳丘盛土下層からは石器が出土している。このほか、西ガガラ遺跡、和田平遺跡（西条町福本）、七ツ池遺跡（八本松町原）などが知られている。

弥生時代の遺跡は多数が確認されているが、弥生前期の遺跡は少なく、中期後半ごろから遺跡数は増加傾向にある。

前期の遺跡としては、友松3号遺跡⁽⁶⁾において、溝状遺構から前期の土器が多数出土している。集落跡としては、団子遺跡⁽⁷⁾や諏訪神社南遺跡⁽⁸⁾が挙げられ、竪穴住居跡や溝状遺構などが検出されている。また、貞付谷遺跡⁽⁹⁾では木葉文を有する壺が出土しており、土坑墓などが検出されている。

中期の集落跡は、磯松池遺跡⁽¹⁰⁾、諏訪神社周辺遺跡⁽¹¹⁾、古市1号遺跡⁽¹²⁾などがあり、吹越遺跡⁽¹³⁾からは焼失した竪穴住居跡が検出されている。また、助平2号遺跡⁽¹⁴⁾や金平山遺跡⁽¹⁵⁾では、弥生中期から古墳時代初頭にかけて継続する集落が確認されている。墳墓としては、藤が迫墳墓群⁽¹⁶⁾で弥生中期後半～中期終末期の木棺墓3基と土坑墓2基が検出されており、木棺墓内から石鏸が出土している。

後期では、貞付谷遺跡、大槻3号遺跡⁽¹⁷⁾、横田1号遺跡⁽¹⁸⁾、古市4号遺跡⁽¹⁹⁾で竪穴住居跡や貯蔵穴が検出されており、徳政遺跡⁽²⁰⁾、助平1号遺跡⁽²¹⁾、大槻2号遺跡⁽²²⁾、寺家城遺跡⁽²³⁾では竪穴住居跡が検出されるなど、弥生後期の集落跡が多数みつかっている。また、青谷1号遺跡⁽²⁴⁾では環濠と思われる溝が検出されおり、弥生後期から古墳初頭の遺物が多量に出土している。墳墓については、助平1号遺跡や横田1号遺跡から土坑墓が検出されているほか、狐が城遺跡⁽²⁵⁾から箱式石棺墓・石蓋土坑墓・土坑墓など計28基の墳墓が尾根頂上に集中した状態で検出されている。

古墳時代の集落跡としては、古市4号遺跡、友松3号遺跡、徳政遺跡、古市2号遺跡⁽²⁶⁾、大槻2号遺跡、貞付谷遺跡、寺家城遺跡などが挙げられる。古市2号遺跡の竪穴住居跡内からはミニチュア土器や鏡形土製品、船形土製品、土製管玉など祭祀遺物とされるも

のが出土しており、一般的な集落ではない要素をもつ遺跡と考えられている。古墳としては、5世紀前半に築造された県下最大規模の前方後円墳である三ツ城第1号古墳が挙げられる。また、竪穴式石室を内部主体とする助平古墳⁽²⁸⁾や横穴式石室を内部主体とする藤が迫第2・3号古墳⁽²⁹⁾・大槻第2号古墳⁽³⁰⁾などがある。

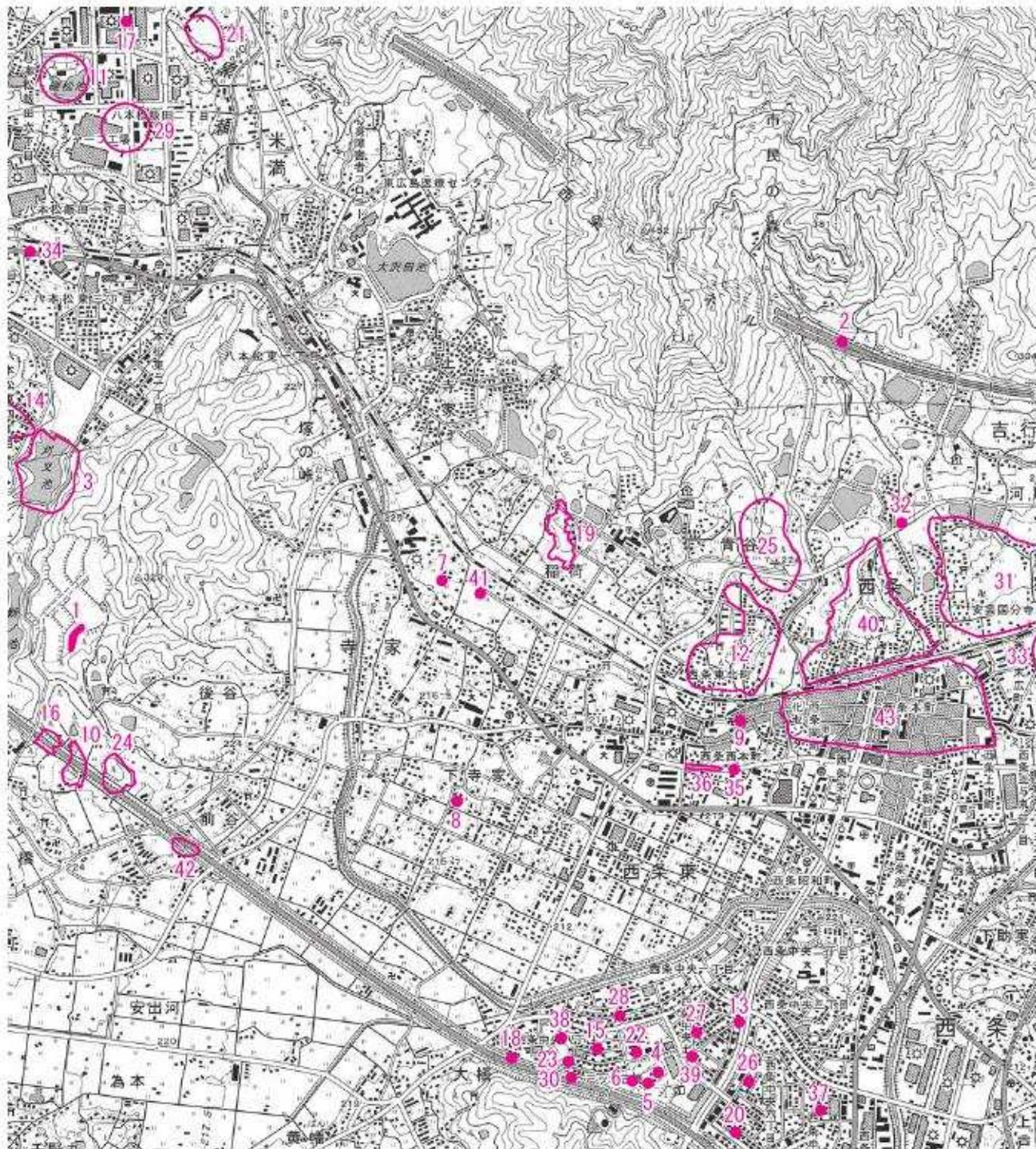
律令時代には安芸国賀茂郡に属し、安芸国分寺⁽³¹⁾が建立され、安芸国府の存在が指摘されている。また、龍王山南側の平地部においては、円面硯や転用硯などが出土した青谷1号遺跡や鋳造工房があったとされる大地面遺跡⁽³²⁾などが確認されており、中心的な役割を担っていた地域であると考えられている。集落跡としては、平田遺跡⁽³³⁾から掘立柱建物跡が検出されている。

中世になると、土居の内城館跡⁽³⁴⁾、城仏土居屋敷跡（八本松飯田）、寺家城跡、狐が城跡などの城館跡が多く確認されているほか、山崎1号⁽³⁵⁾・2号⁽³⁶⁾遺跡などの集落跡も確認されている。墳墓としては、才の木古墓群⁽³⁷⁾、大槻古墓⁽³⁸⁾、古市1号遺跡、古市3号遺跡⁽³⁹⁾などがある。また、御建遺跡⁽⁴⁰⁾では、中世山陽道の一部と推定される道路遺構が検出されている。

近世の遺跡としては、貞松遺跡⁽⁴¹⁾で掘立柱建物跡が検出されているほか、近信遺跡⁽⁴²⁾で近世前期の屋敷跡が検出されている。JR西条駅の南側には、近世西国街道沿いに発展した宿場町である四日市遺跡⁽⁴³⁾があり、建物跡や醸造遺構などが検出され、江戸時代から近代の陶磁器・土器が多量に出土している。また、横田1号遺跡において、人骨が出土した近世墓が5基検出されている。

註

- (1) 団子山5号遺跡（当遺跡）
- (2) 「山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（V）」財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 1990
- (3) 「広島県遺跡地図Ⅱ（呉市・東広島市・安芸郡・賀茂郡）」広島県教育委員会1994
- (4) 「史跡三ツ城古墳発掘調査報告書」財団法人東広島市教育文化振興事業団2004
- (5) (41) と同じ
- (6) 「友松2号・3号遺跡発掘調査報告書」東広島市教育委員会2014
- (7) 「团子2号・3号遺跡発掘調査報告書」東広島市教育委員会2004
- (8) 「团子遺跡発掘調査報告書」東広島市教育委員会2004
- (9) 「諫訪神社南遺跡発掘調査報告書」東広島市教育委員会2005
- (10) 「金平山遺跡・貞符谷遺跡」財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 1992
- (11) 「萬松池遺跡発掘調査報告書」東広島市教育委員会2008
- (12) 「諫訪神社周辺遺跡発掘調査報告書」財団法人東広島市教育文化振興事業団1995
市内遺跡緊急調査報告書」財団法人東広島市教育文化振興事業団2000
- (13) 「西条第一土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書1」東広島市教育委員会1992
- (14) 「吹越遺跡発掘調査報告書」財団法人東広島市教育文化振興事業団1997
- (15) 「西条第一土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（I）」広島県教育委員会・財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 1983
- (16) 「金平山遺跡・貞符谷遺跡」財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 1992
- (17) 「広島県文化財調査報告第9集」広島県教育委員会1971
- (18) 「大槻遺跡群」財団法人広島県埋蔵文化財調査センター・建設省中国地方建設局広島国道工事事務所1985
- (19) 「横田1号遺跡発掘調査報告書」創建ホーム株式会社・大成エンジニアリング株式会社・東広島市教育委員会2012
- (20) (13) と同じ
- (21) 「徳改造跡発掘調査報告書」東広島市教育委員会1982
- (22) (15) と同じ
- (23) (18) と同じ
- (24) 「寺家城遺跡・近信遺跡」財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 1993
- (25) 「青谷1号遺跡発掘調査報告書」財団法人東広島市教育文化振興事業団2002
- (26) (15) と同じ
- (27) (13) と同じ
- (28) (15) と同じ
- (29) 「広島県文化財調査報告第9集」広島県教育委員会1971
- (30) 「大槻遺跡群」財団法人広島県埋蔵文化財調査センター・建設省中国地方建設局広島国道工事事務所1985
- (31) 「史跡安芸国分寺跡発掘調査報告書～（IX）」財団法人東広島市教育文化振興事業団1997～2007
- (32) 「大地面遺跡発掘調査報告書」財団法人東広島市教育文化振興事業団2008
- (33) 「平田遺跡発掘調査報告書」東広島市教育委員会2005
- (34) 「埋蔵文化財調査報告書」東広島市教育委員会1993
- (35) 「山崎1号遺跡発掘調査報告書」財団法人東広島市教育文化振興事業団1995
- (36) 「山崎2号遺跡発掘調査報告書」財団法人東広島市教育文化振興事業団1999
- (37) (15) と同じ
- (38) 「西条第一土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（II）」東広島市教育委員会1993
- (39) 「西条第一土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書1」東広島市教育委員会1992
- (40) 「御建遺跡発掘調査報告書1」財団法人東広島市教育文化振興事業団2010
- (41) 「貞松遺跡発掘調査報告書」東広島市教育委員会2009
- (42) (24) と同じ
- (43) 「四日市遺跡発掘調査報告書1～V」財団法人東広島市教育文化振興事業団2004～2006



- | | | | |
|----------------|-------------|--------------|----------------|
| 1. 団子山 5号遺跡 | 2. 五楽遺跡 | 3. 刘又池遺跡 | 4. 三ッ城第1号古墳 |
| 5. 三ッ城第2号古墳 | 6. 三ッ城第3号古墳 | 7. 友松3号遺跡 | 8. 团子遺跡 |
| 9. 諏訪神社南遺跡 | 10. 貞付谷遺跡 | 11. 磯松池遺跡 | 12. 諏訪神社周辺遺跡 |
| 13. 古市1号遺跡 | 14. 吹越遺跡 | 15. 助平2号遺跡 | 16. 金平山遺跡 |
| 17. 藤が迫墳墓群 | 18. 大槻3号遺跡 | 19. 横田1号遺跡 | 20. 古市4号遺跡 |
| 21. 徳政遺跡 | 22. 助平1号遺跡 | 23. 大槻2号遺跡 | 24. 寺家城遺跡・寺家城跡 |
| 25. 青谷1号遺跡 | 26. 狐が城遺跡 | 27. 古市2号遺跡 | 28. 助平古墳 |
| 29. 藤が迫第2・3号古墳 | 30. 大槻第2号古墳 | 31. 史跡安芸国分寺跡 | 32. 大地面遺跡 |
| 33. 平田遺跡 | 34. 土居の内城館跡 | 35. 山崎1号遺跡 | 36. 山崎2号遺跡 |
| 37. 才の木古墓群 | 38. 大槻古墓 | 39. 古市3号遺跡 | 40. 御建遺跡 |
| 41. 貞松遺跡 | 42. 近信遺跡 | 43. 四日市遺跡 | |

第1図 周辺遺跡分布図 (1:25,000)

III 調査の概要

発掘作業の概要

発掘調査は、試掘調査によって得られたデータ（遺構面までの深さ、堆積土・遺物包含層の状況、遺物の出土状況など）を基に、重機を使用して表土を掘削し、遺構検出面を人力で精査して行った。

調査区の南半分は、表土（腐葉土）直下でマサ土（花崗岩風化土）が露出し、堆積土が全く遺存していなかった。何らかの要因で削平された可能性が高く、その際、遺構もほぼ消滅したものと考えられる。

一方、調査区の北半分には、明褐色～黄橙色土の堆積層が遺存しており、一部で遺構も検出された。しかし、調査区の西側は人工的な斜面になっており、以前の造成時につけられた法面の可能性が高い。これらのことから、団子山5号遺跡の主たる部分は、過去に自動車メーカーによるモータープール造成の際に掘削されたものと考えられ、東側斜面の一部（裾部分）がかろうじて残ったようである。

検出された遺構は、堅穴住居跡1棟、道路状遺構1条、土坑（性格不明土坑含む）5基、ピット2基である。

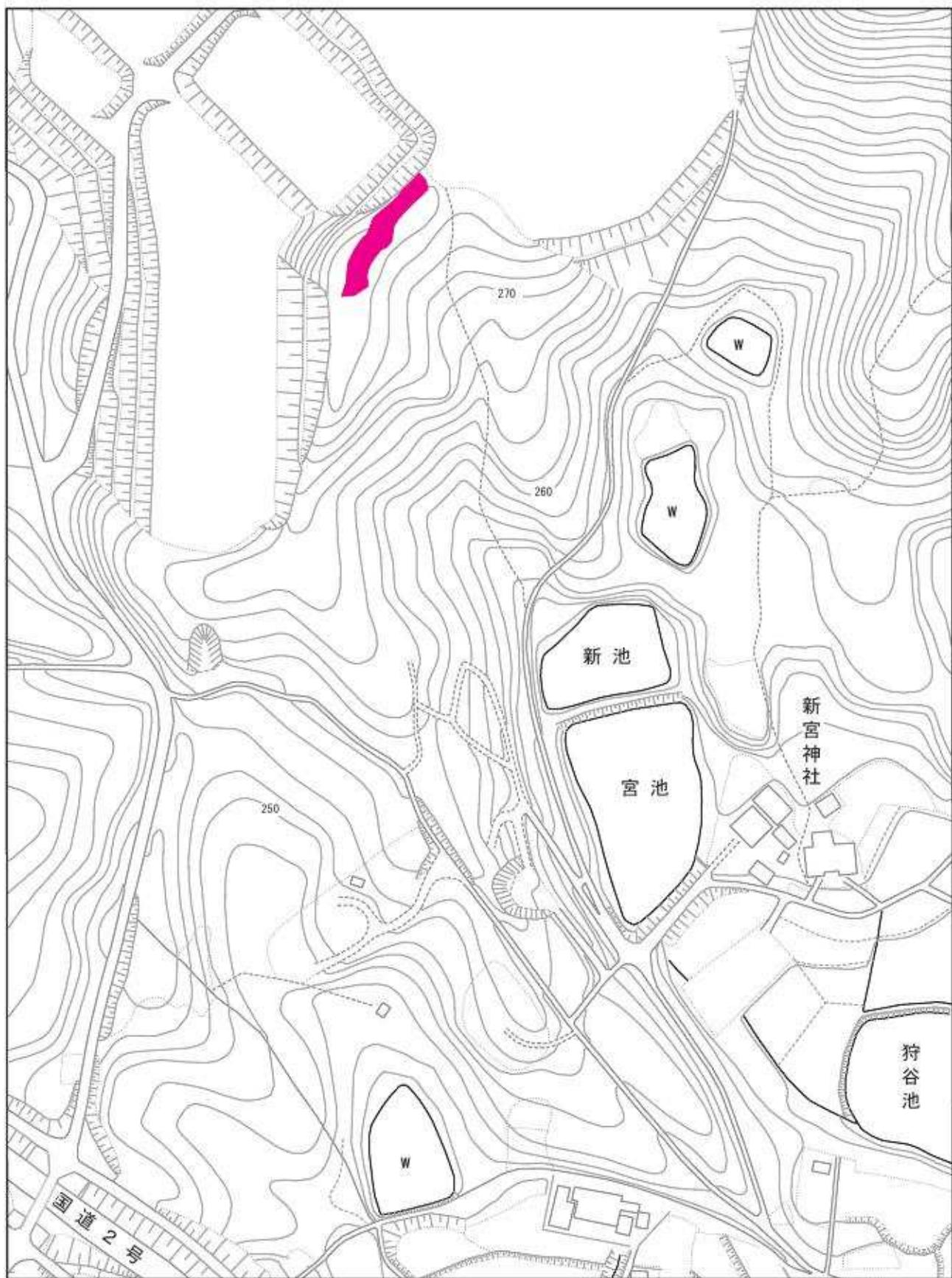
遺物は、SK1から出土した弥生土器と遺構検出中に出土した小破片数点のみである。

整理作業の概要

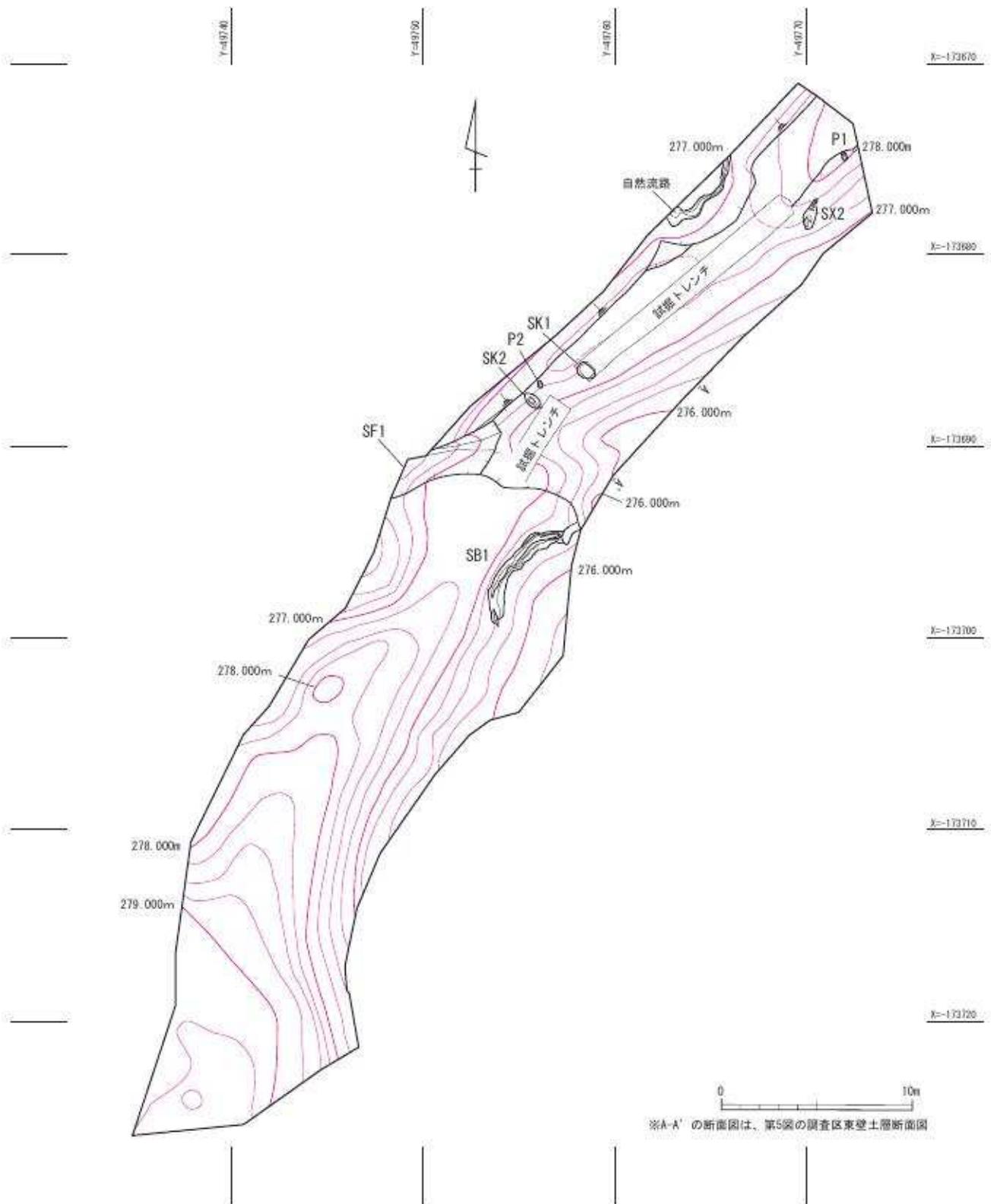
出土した遺物は、直ちに事務所に持ち帰り、水洗と注記作業を実施した。その後、接合と復元作業、実測・写真撮影などの記録を行った。整理作業及び報告書作成作業を進めながら、保管のための分類・収蔵作業も実施した。



遺跡が削平された様子（写真中央から左側へ法面が付けられている）



第2図 遺跡周辺地形図 (1:2,500) 赤色が団子山5号遺跡の調査区



第3図 団子山15号遺跡遺構配置図 (1:300)

IV 遺構と遺物

SB 1 (第4図、図版3)

調査区のほぼ中央で検出された竪穴住居跡である。上部をほとんど削平され、南東側は流失している。壁溝部分しか残っていないため、詳細は不明であるが、平面形は円形ないしは方形を呈するものと考えられる。

残存規模は、南北方向約6mである。重複があり、古い住居跡の壁高は0.1mで、幅0.2m～0.5mの壁溝が部分的に巡る。新しい住居跡の壁高は0.2mで、幅約0.2mの壁溝が部分的に巡っている。

柱穴及び炉跡も確認できなかった。遺物は出土していない。

SK 1 (第4図、図版4)

調査区のほぼ中央で検出された土坑である。試掘調査の際、遺構上面を掘削してしまったため検出プランを詳細に確認できなかつたが、不整な橢円形を呈すると考えられ、規模は、長軸約1m、短軸約0.6m、深さ約2.1mを測る。底面の形状も0.6m×0.7mの長方形を呈し、壁面の中央部は崩落による膨らみが確認できるが、ほぼ真っ直ぐに掘り下げられたものと考えられる。いわゆる袋状土坑のような広い空間ではなく、形状的には井戸が最も近い。しかし、自然の湧水はなく、マサ土（花崗岩風化土）の地山は水はけが良く、貯め井戸にも向いていない。また、落とし穴も考えられるが、底面に杭を立てる小ピットは検出されていない。

堆積土の断面観察では、砂と砂質土が交互に堆積していることが確認できた。これは、底部から約1.2mの遺物が出土した層まで続き、遺物から上層は砂質土がほぼ一括で堆積していた。

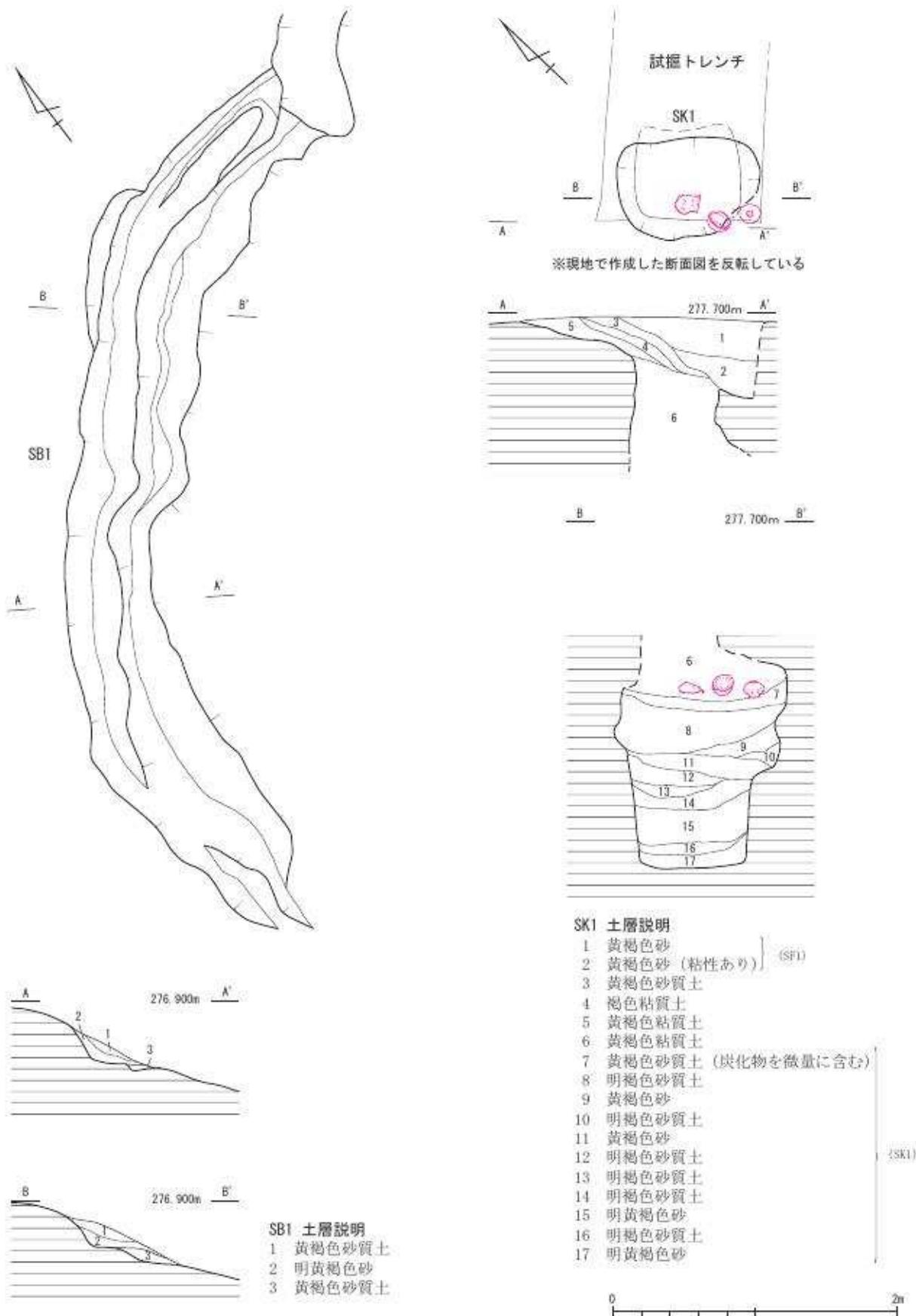
遺物は、甕形土器(1)、壺形土器(2)、鉢形土器(3)がセットで出土した。壺形土器はほぼ完形だが倒立した状態、鉢形土器は底部を打ち欠いた状態、甕形土器は破片の状態で検出された。何れも破片を伴わず、破棄されたままの状態と考えられ、土層の堆積状況などから考えると、意識して埋設した可能性もある。

出土遺物 (第29図2・3、図版19)

1は、甕形土器である。口縁部が強く外反し、端部は拡張して凹線文を巡らせ、肩部には刺突文が施される。底部を欠き、全体の約4分の1しか遺存していない。

2は、壺形土器の完形品である。体部下方に欠損がみられるが、意図的なものかは不明である。半球状の体部に短い頸部をもつ。口縁部は強く外反し、端部に凹線文を巡らせている。頸部には紐を通すためと考えられる4個所の穿孔をもつ。この穿孔は、2個を1対として対向する部分に直径約2mmで施されている。肩部に条線文と波状文、刺突文が施される。また、やや上げ底で高台状を呈する底部には凹線文が巡らされている。

3は、鉢形土器である。口縁部は強く外反し、端部に凹線文を巡らせ、肩部には刺突文が施される。底部を欠損している。



第4図 SB1・SK1実測図 (1:40) 赤—土器

弥生時代中期後半（妹尾編年IV－2期⁽¹⁾）と考えられる。

註(1) 妹尾周三「安芸地方」『弥生土器の様式と編年－山陽・山陰編－』正岡睦夫・松本岩雄編 1992 木耳社

SK 2（第5図、図版4）

調査区のほぼ中央で検出された、平面形が楕円形を呈する土坑である。規模は、長軸約1m、短軸0.57m、深さ約0.14mを測る。削平が著しく、遺存状態が悪い。

P 1（第5図、図版4）

調査区の北端で検出された、平面形が不整な楕円形を呈するピットである。規模は、長軸約0.5m、短軸0.27m、深さ約0.3mを測る。削平が著しく、遺存状態が悪い。

P 2（第5図、図版5）

調査区のほぼ中央で検出された、平面形が楕円形を呈するピットである。規模は、長軸約0.4m、短軸0.26m、深さ約0.1mを測る。削平が著しく、遺存状態が悪い。

SX 2（第5図、図版5）

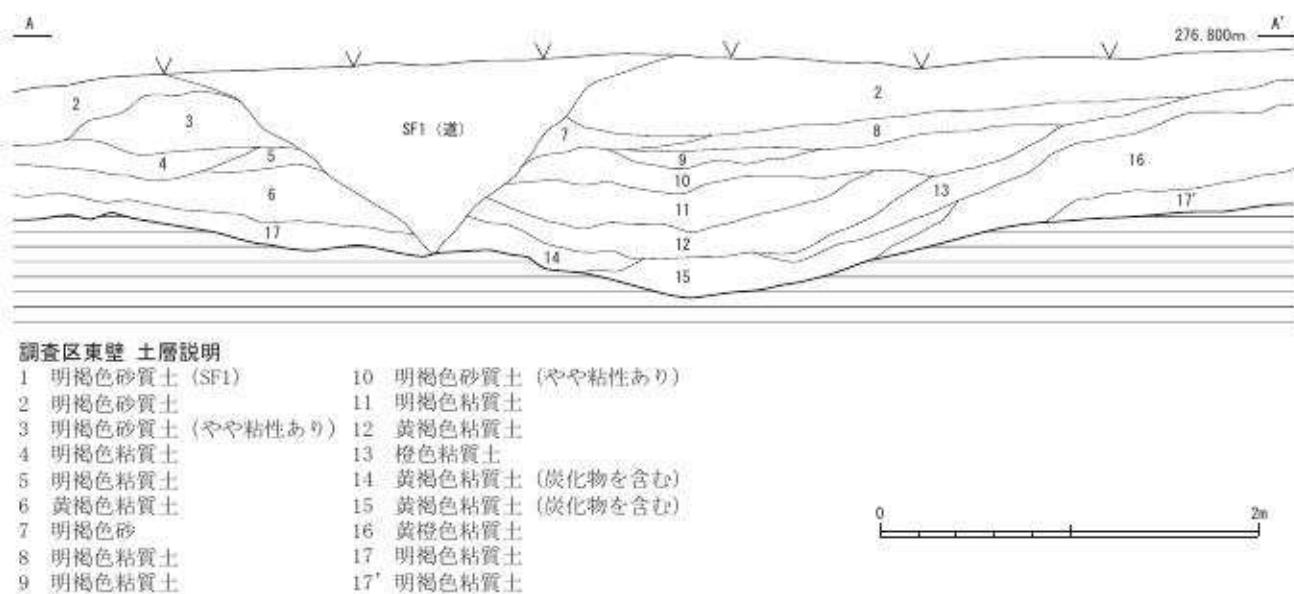
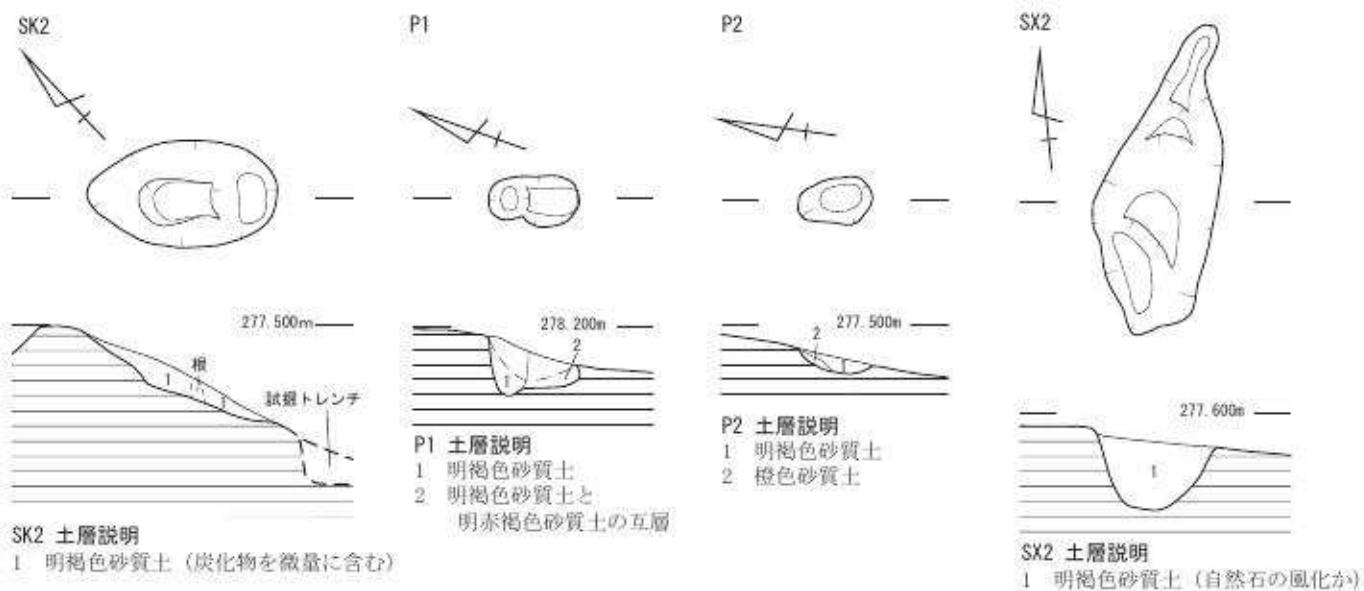
調査区の北端で検出された、平面形が不整な楕円形を呈する性格不明土坑である。規模は、直軸約1.7m、短軸0.64m、深さ約0.4mを測る。底部が不整形で、風倒木土坑の可能性がある。

SF 1（第5図、図版3）

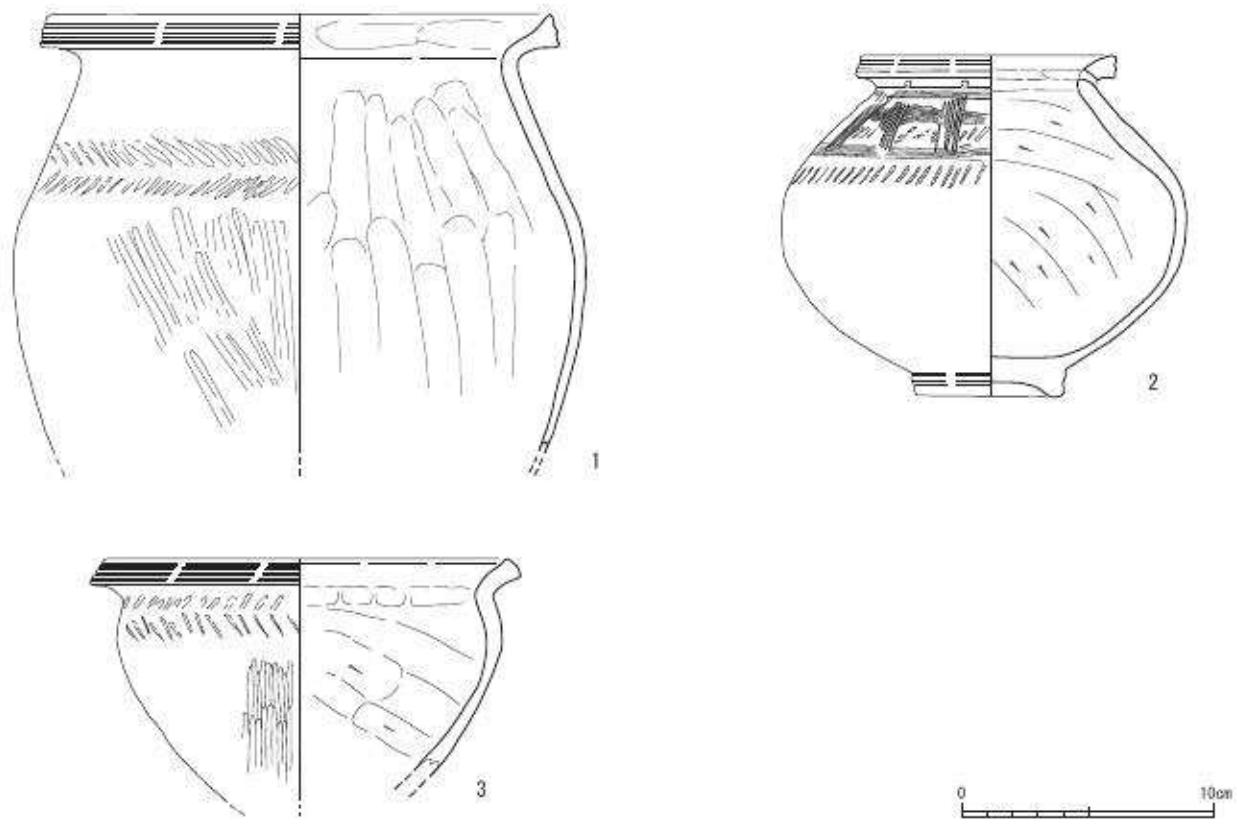
調査区のほぼ中央で検出された、遺跡を東西方向に横断する道路状遺構である。調査区西端から約9度（4.5mで0.7m上がる）の傾斜を上り、東へ約6mのところで峠のピークがあり、約7.5度（10mで1.2m下る）の傾斜を下って調査区東端へ下る。平面では、包含層との区別がつきにくく、完掘後の東壁で「V」字状の断面を確認した。表面の腐葉土の直下から掘り込まれており、近現代の道と考えられる。

表1 遺物観察表

遺物番号	出土地点	種別	器種	法量(cm) ()は復元値	粘土	焼成	色調	調 整	備考
1	SK1	弥生土器	甌	口径：(20.0) 残存高：17.4 底径：-	粗	良	外面：明黄褐 内面：灰	外面：四線文(2条)・ナデ・ミガキ・ヘラ状工具による刺突文 内面：ナデ	
2	SK1	弥生土器	壺	口径：(10.1) 器高：13.4 底径：5.9	粗	良	外面：浅黄橙 内面：橙	外面：四線文(口縁部：2条、底部：2条)・ナデ・前 状工具による条線文、波状文および刺突文 内面：ナデ・ケズリ	
3	SK1	弥生土器	鉢	口径：17.0 残存高：9.6 底径：-	粗	良	外面：明黄褐 内面：浅黄橙	外面：四線文(4条)・二枚目による刺突文・ミガキ 内面：ナデ	



第5図 SK2・P1・P2・SX2実測図、調査区東壁土層断面図 (1:40)



第6図 出土遺物実測図 (1:3)

V まとめ

団子山5号遺跡の発掘調査は、過去の造成による削平が著しく、遺跡の全容を解明するには至らなかった。ここでは、唯一遺物が出土したSK1について考察し、まとめにかえたい。

SK1は、検出プランを詳細に確認することができなかつたが、底面の形状は方形を呈し、(壁面の中央部は崩落によってやや膨らんでいるが) 土坑の中位から底部まではほぼ垂直に掘られており、方形を意識して構築された土坑と考えられる。

では、SK1の性格について少し考えてみる。

その形状から、先ず浮かんでくるのが、“井戸”である。しかし、ほぼ垂直に約2m掘削されているものの、湧水層までは達していないため、調査時も水が溜まることはなかつた。また、堆積した土層断面を観察すると、底部に水成堆積の状況は見られず、中位上層までは砂層と砂質土層が交互に堆積し、側板などの構造物の痕跡は確認できなかつた。このように、積極的に井戸とする根拠は薄い。

次に想像されるものとして、貯蔵穴・廃棄土坑・落とし穴・墓穴が挙げられる。

“貯蔵穴”は、狭く深く掘削された土坑が貯蔵の用途に向いているか疑問が残る。仮置き場あるいは木器の貯蔵場としても、あまりに狭く深いため、這い上がるのも困難で、はしごをかけねば保管場所も作業空間もほぼなくなる。“廃棄土坑”は、遺物の出土状況が特殊なことからも考えにくい。もちろん、食物残滓など腐食してしまうものは、遺存しにくくプラントオパールなどの化学分析を行っていないことも事実であるが、わざわざ廃棄するために狭く深い穴を掘るだろうか。

“落とし穴”は、単独で存在すること、上面が狭いこと、底面に杭を立てる小ピットが検出されていないことから積極的には肯定し難い。“墓穴”は、近世などの座棺のように狭く深く掘削する例はあるものの、SK1では中位から底部までの埋土の堆積状態や遺物の出土状況から考えると、これも積極的には肯定し難い。

結局、SK1の性格は、類例がない現状では「分からない」と言わざるを得ない。わずかな証拠である出土遺物は、甕形土器、壺形土器、鉢形土器の3点で、何れも破片を伴っておらず、破棄されたままの状態と考えられる。このことから消極的な理由ではあるが、SK1は、何らかの祭祀的な性格を持つものではなかろうか。

秋田裕毅氏はその著書⁽¹⁾で、土坑は「地下他界に住まうカミがこの世に顕現するための通路」と推測している。その説に従えばSK1は、カミマツリの施設として掘削され、中位上層まで自然堆積した後、底部を打ち欠いたり、穿孔した土器でもう一度カミマツリをして人為的に埋めたと説明できる。ただし、周辺遺跡での類例もないため資料の増加を待って、今後の検討課題としたい。

註

(1)秋田裕毅（大橋信弥編）『井戸』ものと人間の文化史150 法政大学出版局2010

図 版



調査前近景（北東から）

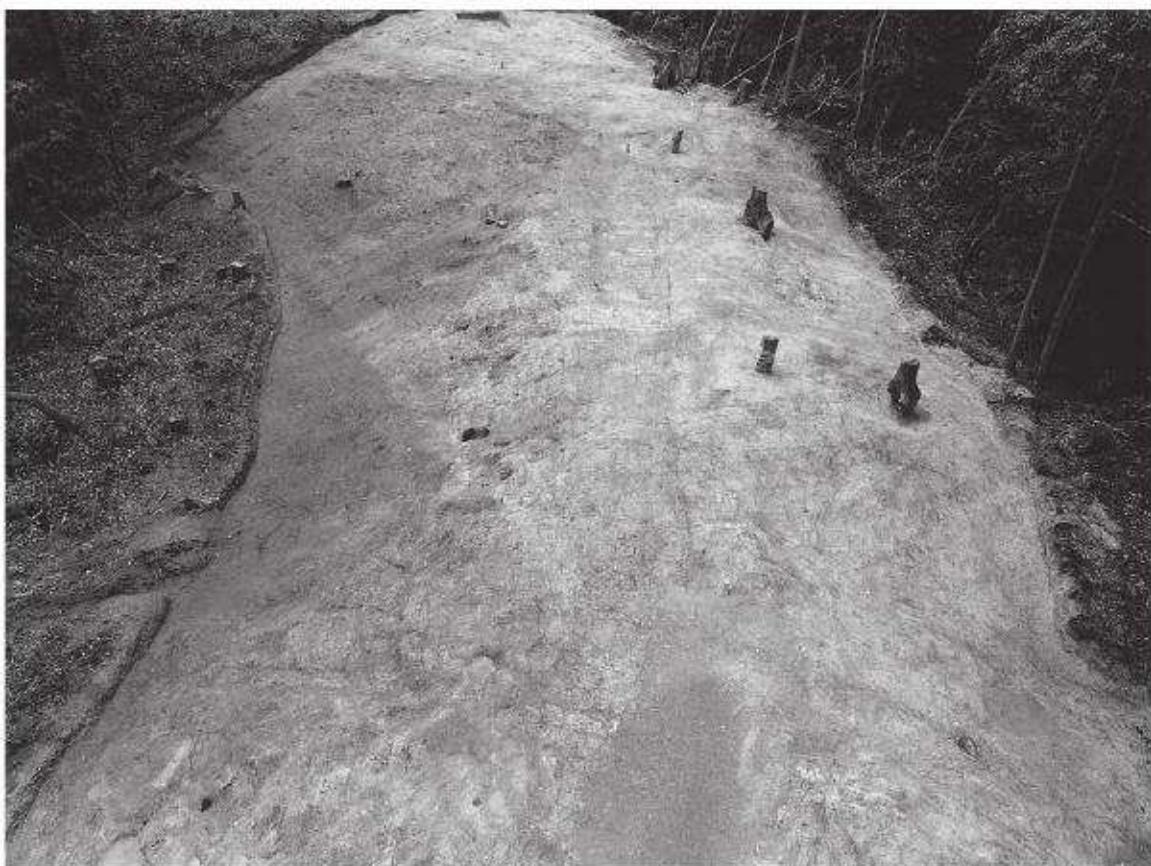


a. 空中写真完掘遠景（北東から）



b. 空中写真完掘全景（北西から）

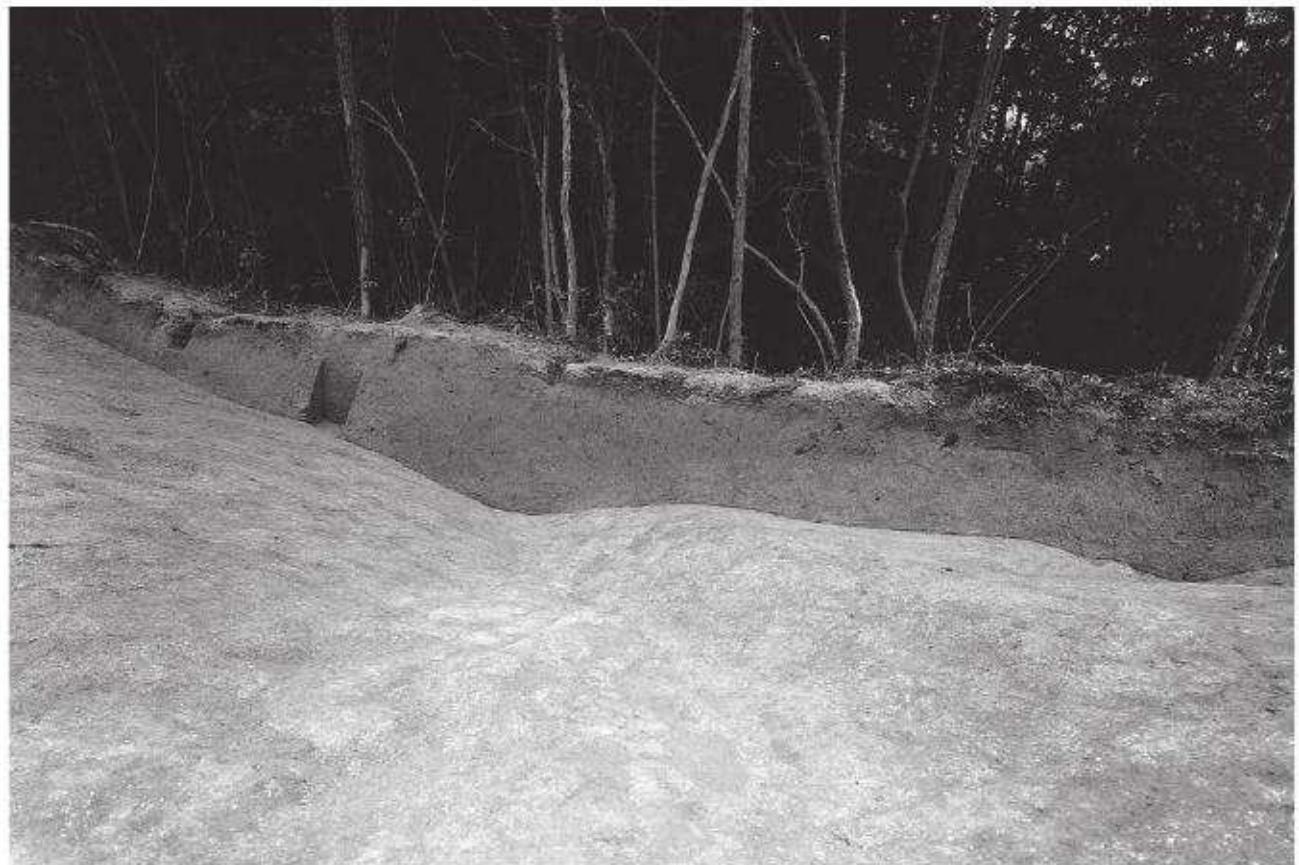
図版2



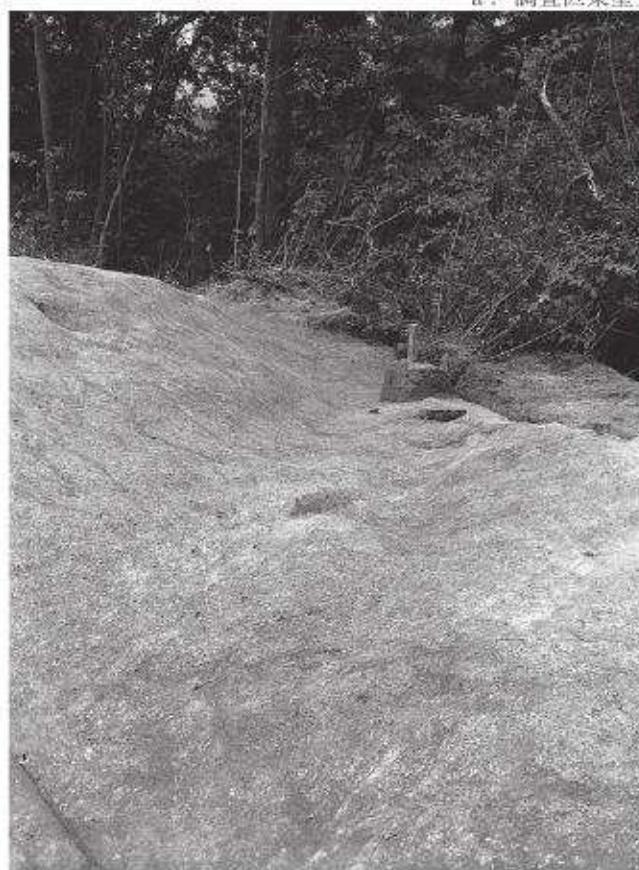
a. 調査区南半完掘近景（北から）



b. 調査区北半完掘近景（北から）



a. 調査区東壁土層断面（西から）



b. SF1完掘（北東から）

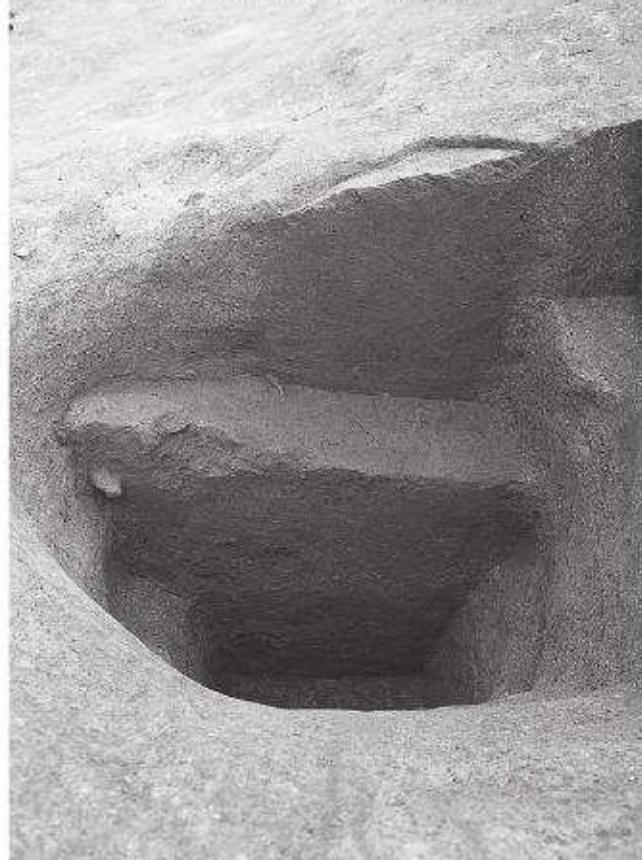


c. SB1完掘（北東から）

図版4



a . SK1土層断面（上部）（北から）



b . SK1土層断面（北から）



c . SK1遺物出土状況（北から）



d . SK1完掘（北から）



e . SK2完掘（南から）



f . P1完掘（南から）



a. P2完掘（北から）



b. SX2完掘（北東から）



1



3



2

出土遺物

報 告 書 抄 錄

東広島市教育委員会文化財調査報告書 第52集

団子山5号遺跡発掘調査報告書

発行日 2015（平成27）年3月27日

編集・発行 東広島市教育委員会
〒739-8601広島県東広島市西条栄町8番29号

印 刷 山鶴印刷株式会社
〒725-0003広島県竹原市新庄町29